



Vol.5 夫唱婦随

高木兼寛は明治8年から5年間英国に留学したが、その留学で切実に感じたのは、日本国民の民度が著しく低いことであった。帰国したらぜひその基礎になる衣食住を洋風(英国風)に改めねばならないと考えた。彼はまず、衣食住の改善には夫人たちの協力が是非必要であるという考えから、海軍軍医の夫人を会員とする「愛生社」という親睦会を結成した。それは兼寛夫人・富子を会長とし、実吉安純、豊住秀堅ら兼寛一党の夫人を幹部とする全海軍軍医夫人の会であった。毎月一回兼寛宅で開かれる会合では、兼寛も加わって、西洋の婦人の交際の仕方や、礼儀作法、衛生上のこと、子供の教育のことなどについて講義をした。そのうち社交ダンスの稽古や洋食のマナーなどの講習もおこなうようになり、会場も芝公園の水交社を使うようになった。

そのころ政府も西欧化をすすめるために、その運動の中心になる建物・鹿鳴館を完成した(明治16年)。これは日本人の生活を西欧化し、外国人との交際を密にするための社交場であった。この建設には兼寛もいささか貢献したが、さらに彼は貴族や軍人たちを組織し、これに先の愛生社を加えて「鹿鳴会」なる会を興した。この鹿鳴会では、婦人たちは洋装して出席し、さかんに夜会、舞踏会、仮装などをおこなった(鹿鳴館時代)。兼寛夫妻もこれら催物を大いに楽しんだ。はじめ婦人たちは、このような欧化主義運動には、あまり積極的ではなかったが、そのうち少しずつ馴れていった。兼寛も「私の家内などもはじめは外国風を大変嫌いましたが、私は強情ではぜったい負けないつもりで強情を張りましたら、今では私より西洋風がいいと云うようになりました」と夫人の変化を大変喜んでいる。

そのころ鹿鳴会の有志(伊藤博文夫人らを中心とする貴族夫人)は「婦人慈善会」なるものを結成して、しばしば慈善バザーを催し、その収益金を兼寛らのつくった有志共立東京病院に寄付した(明治17、18年。その寄付金で病院の看護婦教育所がつくられた)。彼女たちはか

ねてから兼寛らの病院設立の慈善的趣意に感動していたのである。婦人慈善会の支援はしだいに強力になり、病院を東京慈恵医院と改称して、その維持費をさらに皇室の恩賜金によるように改革した(明治20年)。そのためそれまで海軍軍医学校に共生するかたちであった兼寛らの医学校(成医学校)も、この病院に付属するかたち(東京慈恵医院医学校)になり、ようやく海軍から独立することになった。

このように見てくると、西欧化運動や病院・医学校の建設などにたいして、愛生社会長・兼寛夫人の貢献も間接的とはいえやはり見逃すことはできないのではないだろうか。

病院・医学校の建設のほかに、兼寛のもう一つの大きな業績は脚気病の原因究明とその予防法、治療法の発見であるが、この業績にたいしても兼寛夫人の寄与は無視できないのである。日露戦争勝利の翌明治39年、兼寛は欧米の視察旅行にでかけたが、目的は脚気病の予防、治療に成功したことを講演するためであった。この講演によって彼は、後年ビタミン発見の先駆者として高い評価をうけ、南極大陸に「Takaki Promontory高木岬」の地名をのこすことになるのである。外国での発表でもあり、その原稿作成には兼寛もずいぶん神経をつかったらしい。準備のため、彼は事務長と兼寛夫人を同伴して、北海道に二週間も滞在している。その間、彼は毎日夫人を前にして講演のリハーサルをおこない、事務長はそれを速記するよう命ぜられた。夫人は聴講者のつもりで講演を聴き、分かり難いところや腑に落ちないところは遠慮なく質問し、兼寛はそれをころよく取り入れ、草稿を修正していった(事務長は速記をとりながら、その情景を見てしんから羨ましいと思ったと告白している)。そのためか、すでに印刷になっているその講演は、理路整然としていて、いま読んでみても非常に分かりやすいのである。

こうしてみると南極大陸にのこる「高木岬」を顕彰するときにも、やはり兼寛夫人の内助の功も同時に想起してよいのではないだろうか。

写真：鹿鳴館 貴婦人慈善会図 出典：法人広報誌「The JIKEI」第5号

Access

第三病院

〒201-8601 東京都狛江市和泉本町4-11-1
☎03-3480-1151 (大代表)
Access
京王線 国領駅(徒歩12分)
京王線 調布駅(バス10分)
小田急線 狛江駅(バス10分)

附属病院(本院)

〒105-8471 東京都港区西新橋3-19-18
☎0570-03-2222 (ナビダイヤル)
Access
都営三田線 御成門駅(徒歩3分)
日比谷線 神谷町駅(徒歩7分)
銀座線 虎ノ門駅(徒歩10分)
JR・銀座線・都営浅草線 新橋駅(徒歩12分)

柏病院

〒277-8567 千葉県柏市柏下163番地1
☎04-7164-1111 (大代表)
Access
JR常磐線 北柏駅
(徒歩10分//バス5分/タクシー5分)
JR常磐線 柏駅
(徒歩25分//バス15分/タクシー10分)

葛飾医療センター

〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2
☎03-3603-2111 (大代表)
Access
京成線 青砥駅
(徒歩10分//バス6分/タクシー5分)
JR常磐線 亀有駅
(バス10分/タクシー5分)



広報誌「よつば」について

東京慈恵会医科大学は4つの附属病院を有しています。「四つ葉のクローバー」のように4病院が有機的につながり合い、力を合わせ、患者さんを中心とした医療を実践していくという思いを込め、誌名としました。

東京慈恵会医科大学 4附属病院広報誌

よつば

第6号

2025年3月

Contents

第5回

慈恵人

葛飾医療センター
腎臓・高血圧内科 診療部長

丹野 有道

● TEAM JIKEI
～全ては患者さんのために～

病院を支えるコメディカルの紹介(臨床工学部編)

● Jikei History Vol.5
評伝 学祖 高木兼寛
―夫婦婦随―

慈 恵 人

第 5 回



東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター
腎臓・高血圧内科 診療部長

丹野 有道 Yudo Tanno

Profile 東京慈恵会医科大学卒業。東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター 腎臓・高血圧内科 診療部長
【所属団体・資格】日本内科学会 指導医、日本腎臓学会 腎臓専門医・指導医、日本透析医学会 透析専門医・指導医・評議員、日本腹膜透析医学会 認定医・評議員、日本臨床腎移植学会 腎移植専門医、日本移植学会 移植認定医、日本腎移植内科研究会 監事、日本インターベンショナルネフロロジー学会 幹（第17回学術集大会長）、日本医師会認定産業医、国際腎臓学会、国際腹膜透析学会、東京都区部災害時透析医療ネットワーク 区東北部ブロック長、区東北部CKDネットワーク 幹事、日本腎臓病協会 東京地区幹事

自己紹介 ～self-introduction～

東京慈恵会医科大学 葛飾医療センターで2019年から腎臓・高血圧内科の診療部長を務めております。平成8年に慈恵医大を卒業後、英国セントトーマス病院や東京大学への留学を経て、慈恵医大附属病院および関連施設、聖路加国際病院などで腎臓病診療に従事してまいりました。高血圧や電解質異常に加え、病初期の検尿異常から慢性腎臓病、腎不全医療にいたるまで、腎疾患診療に関する全ての領域をカバーすべく、日々の診療にあたっております。私は腹膜透析、腎移植、透析関連手術などを専門としており、なかでも腹膜透析は国内に約1,000あるとされる実施施設のうち、葛飾医療センターは三大施設の一角に数えられるまでに成長して参りました。とにかく風通し良く、気軽になんでも相談して頂けるような存在でありたいと思っておりますので、腎臓病治療の拠点として、当科をご活用頂けましたら幸甚です。

信念 ～belief～

私も東京慈恵会医科大学 内科学講座 腎臓・高血圧内科は、1958年に創設された第二内科がその起源となり、その後、現在の腎臓・高血圧内科に改組されました。日本腎臓学会の創設、『透析導入基準』の策定、IgA腎症の疾患概念の国内導入、全国に先駆けて経皮的腎生検や腹膜透析を開始、世界初の腎臓再生、腹膜透析+血液透析併用療法を世界で初めて開始するなど、常に日本の腎臓病学を牽引する立場にある国内最大規模の腎臓病教室です。これらの伝統を受け継ぎ、さらに発展させるべく、私自身も各種の教育・啓蒙活動に加えて、日本発・世界初の新規検査法である腹膜透析用極細内視鏡の開発に携わるなど、イノベーションにも力を入れています。そして、その根幹にあるのは本学の建学の精神である「病気を診ずして病人を診よ」という全ての慈恵人が共有する言葉です。患者さんの想いに寄り添った診療や患者さんの役に立つ研究開発を続けていきたいと考えております。



～患者さんの想いに寄り添った医療を提供したい……～

このコーナーでは、慈恵大学の4つの附属病院で活躍されている教職員を「慈恵人」として紹介します。

第5回は、葛飾医療センター（東京都葛飾区）の腎臓・高血圧内科、丹野有道診療部長をご紹介します。丹野先生に現在葛飾医療センター腎臓・高血圧内科で取り組まれていることや、ご自身が「慈恵人」として日頃から患者さんに対して心がけていることなどを伺いました。

■ 東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター 腎臓・高血圧内科の紹介

内科専門医、腎臓専門医、透析専門医、腹膜透析専門医、腎移植専門医が常勤しておりますので、あらゆる腎疾患や腎代替療法（血液透析、腹膜透析、腎移植）への対応が可能です。わざわざ都心まで出ていなくても、質の良いものがなんでも揃っていて地元の皆さまに愛される腎臓病診療の百貨店でありたいと思っております。

◆慢性腎臓病(CKD)診療

1) 当院は区東北部CKDネットワークの中核医療機関です。

私どもが発起人となって東京都区東北部（葛飾区・足立区・荒川区）エリアの腎臓専門医が集まり、腎臓専門医が居る医療機関と、かかりつけ医などが、図1の様な体制で協働し治療を行う「区東北部CKDネットワーク」が立ち上がりました（事務局：東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター内）。CKD対策情報、紹介基準や講演会などの情報を掲載しておりますので、詳しくは下記二次元コードよりホームページをご覧ください。

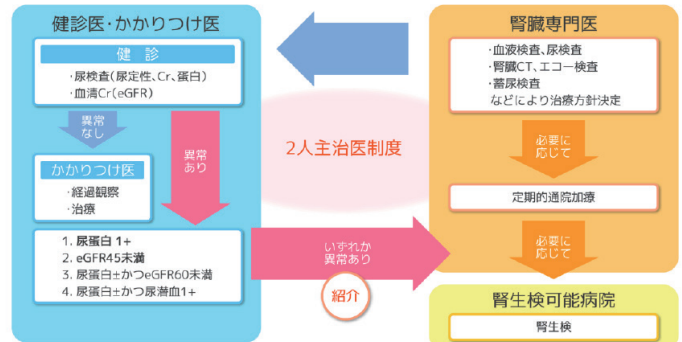
2) 当院は葛飾区で唯一の腎生検実施施設です。

CKDの原疾患を確定診断するためには腎生検が必須ですので、診断をつけて治療方針を決定したら、紹介元の先生へお戻した上で、連携しながら診療を進めていきます。

◆災害対策

当院は、東京都区部災害時透析医療ネットワークにおける区東北部（葛飾区・荒川区・足立区）ブロック長および事務局長が在籍しており、二次医療圏の中核病院として、災害や感染症流行時も安全に透析を受けて頂けるよう地域の医療機関との連携にも力を入れています。

（図1）



東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター
腎臓・高血圧内科

区東北部
CKDネットワーク

TEAM JIKEI

～全ては患者さんのために～

病院を支えるコメディカルの紹介(臨床工学部編)

病院を支える医師以外の職種(コメディカル)について、ご紹介するコーナーです。
4回目を迎える今回は、臨床工学部の業務をご紹介します。



附属病院(本院)
臨床工学部 技士長

平塚 明倫

Akinori Hiratsuka

機器管理業務

機器管理業務は、医療機器の保守管理、コスト管理、安全管理の3つの柱で成り立っています。保守管理では、日常点検、使用前後点検、定期点検を通じて機器の正常な動作を確認し、患者安全を守ります。コスト管理では、機器の適正な台数を管理し、点検費用や修理費用を最適化します。安全管理では、医療スタッフに対して研修を行い、機器の正しい使用方法を教育し事故や誤操作を防ぎます。これにより、患者さんが安心して治療を受けられるよう支援しています。



附属病院(本院)

川尻 将守

Masamori Kawajiri

ICU(NICU等含む)業務

集中治療室は生命にかかわる患者さんを24時間体制で治療しております。よって、高度な先進医療機器が必要となります。呼吸を助ける人工呼吸器や弱った心臓を補助するECMO装置、腎臓の代わりをする血液透析装置などです。生命を維持管理する特殊な医療機器が数多く使用されています。以上から医療機器の安全管理が必須となります。従って、集中治療室に臨床工学技士が常駐することで安全な治療サポートに努めております。



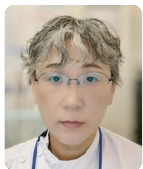
附属病院(本院)

根本 和征

Kazuyuki Nemoto

血液浄化業務

急性期医療を中心とした病院のため、患者さんの入院目的は検査・手術・血液透析の導入など多岐にわたりますが、患者さんに安心して治療を受けてもらえるよう、日々機器の操作・メンテナンス・透析液の管理を行い、医療安全を中心とする事項を系列4病院で定期的に情報共有しています。また、患者さんに応じた各種の血液浄化療法をチームで対応し、治療の安全と質の向上に努めています。



第三病院

小袖 理香

Rika Kosode

臨床工学技士をご存知ですか。社会的認知度はとても低いのが実状と思われます。臨床工学技士法は1987年に制定され、翌1988年に第1回臨床工学技士国家試験が実施されました。誕生から40年に満たない職種であり、他医療職と比較しても圧倒的に人数が少ない職種でもあります。業務も医療機器の保守管理や操作であり、病外来や入院中の患者さんとお会いする機会もほぼございません。その他業務も、医療機器の安全使用の院内講習会の企画・推進など、診療現場から離れております。以上より、我々は病院を縁の下から支えることを使命として、建学の精神に基づき日々精進しております。今回を契機に、臨床工学技士へのご理解を深めて頂ければ幸いに存じます。

心臓カテーテル業務

心臓カテーテル室では、心臓の機能などを評価する検査と心筋梗塞などの虚血性心疾患の治療を行っています。私たちは、必要な材料の準備と使用する装置の操作、装置に表示される画像の解析などを行います。ここでは、医師をはじめ専門の医療スタッフが連携して、患者さんを中心としたチーム医療の実践を心掛けています。また、治療から集中治療室での回復まで、患者さんの安全を最優先に24時間体制でサポートいたします。



葛飾医療センター

藤原 貴大

Takahiro Fujiwara

手術室業務

手術室では、高度な医療機器が使用されており、臨床工学技士が医療機器の操作・保守管理を担当しております。私たちの主な業務は、手術前の機器点検、心臓手術で使用する人工心肺装置の操作・管理、ロボット支援手術の準備・操作、機器トラブルへの対応などです。また手術で使用される医療機器は定期的な点検を行い、常に万全の態勢で手術に臨めるように努めています。手術を受けられる患者さんが安心して治療に専念できるよう、私たち臨床工学技士はチーム医療の一員として、全力でサポートさせていただきます。



柏病院

海津 達也

Tatsuya Kaizu